

2025 年度講義要項

(こども保育学科 2 年生用)

トリニティカレッジ
出雲医療福祉専門学校

目 次

I. 授業日程表	1
II. 資格取得時の到達目標・求められる保育者像	2
III. 教養科目	
健康科学	5
IV. 保育の本質・目的に関する科目	
社会的養護 I	9
保育原理	10
児童家庭福祉	11
家庭支援論	12
V. 保育の対象の理解に関する科目	
発達心理学	15
乳幼児心理学	16
教育相談	17
子どもの健康と安全	18
子どもの食と栄養	19
VI. 保育の内容・方法に関する科目	
保育内容「言葉」	23
障害児保育総論	24
社会的養護 II	25
子育て支援	26
ピアノ II	27
造形表現 II	28

VII. 保育実習	
保育実習Ⅰ（施設）	31
保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導	32
保育実習Ⅱ	33
保育実習Ⅲ	34
保育実習Ⅱ事前事後指導	35
保育実習Ⅲ事前事後指導	36
VIII. 総合演習	
保育・教職実践演習	39
IX. 学校独自の科目	
保育応用力演習	43
社会人基礎力Ⅱ	44
教育実習（1回目）	45 ⑧
教育実習（2回目）	46 ⑧
教育実習事前事後指導	47 ⑧

⑧：幼稚園教諭二種免許状取得必須科目

授 業 概 要

2025 年度

健康科学		講義		担当者	実務経験
				黒田 慎太郎	
8 回	15 時間（1 単位）	1 年 前期	必修		
[授業の目的・ねらい]					
現代人の健康に科学の果たしている役割を理解し、健康維持や体力向上に対するスポーツ活動の持つ教育的意義を学習する。また、幼児期及び青年期における運動・スポーツの意義や果たすべき役割を理解し、ロコモティブシンドローム(運動器症候群等)と子どもの運動習慣の重要性について学習する。					
[授業の内容]					
健康科学に関する認識を広げるため、心・環境・社会などの様々な視点から、健康の概念を概説し理解を深める。					
[達成課題（到達目標）]					
① 健康維持や体力向上に対するスポーツ活動の重要性について話し合うことができる。					
② ロコモティブシンドロームについて、子どもの運動習慣の視点から考えることができる。					
③ 運動がもたらす健康への効果をまとめることができる。					
[授業計画]					
1. 現代の健康問題概観：オリエンテーション・健康の増進					
2. 健康の基礎：心・環境・社会					
3. 運動に必要な要素					
4. 子どもの運動習慣の問題点：ロコモティブシンドローム（運動器症候群・運動器不安定症）					
5. 子どもの運動習慣：運動能力を伸ばす時期					
6. 運動指導法：安静時と運動時のエネルギー代謝/体力・運動能力の性差					
7. 運動指導法：健康の保持・増進のための身体活動・運動指導					
8. 筆記試験・まとめ					
[事前・事後学習の内容]					
事前に指定した範囲を読んでおく。					
授業内で示す課題についてレポートを作成する。					
[参考文献]			[成績評価の方法]		
テキスト健康科学改訂第2版（株）南江堂 2018			授業態度（20％）		
栄養・スポーツ系の運動生理学（株）南江堂 2018			課題レポート（30％）		
生涯スポーツ・健康科学 近畿大学九州短期大学通信教育部 2018			筆記試験（50％）		
授業内配布資料			※但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする。		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

社会的養護Ⅰ		講義		担当者	実務経験
				馬淵 芳美	○
15 回	30 時間（2 単位）	2 年 前期	必修		
[授業の目的・ねらい] 現代社会における社会的養護の意義と制度や実施体系等について理解する。					
[授業の内容] 社会的養護の歴史的変遷や社会的養護の基本、制度及び子どもの人権擁護について理解する。また、社会的養護に関わる専門職や、社会的養護の現状を知り、課題についても理解する。					
[達成課題（到達目標）] 社会的養護の意義及び社会的養護における保育士の責務を説明することができる。					
[授業計画] 1. 社会的養護の機能と役割 2. 社会的養護を必要とする子どもたちとその現状 3. 社会的養護の歴史的変遷（諸外国・日本） 4. 子どもの人権擁護 5. 子どもの最善の利益を考えた支援 6. 虐待を受けた子どもへの支援 7. 措置制度が採用されている施設について① 8. 措置制度が採用されている施設について② 9. 施設養護の支援① アドミッションケア 10. 施設養護の支援② インケア 11. 施設養護の支援③ リービングケアとアフターケア 12. 社会的養護に携わる人々 13. 社会的養護における保育士等の倫理と責務 14. 社会的養護の現状と課題 15. 筆記試験					
[事前・事後学習の内容] テキストの次回授業内容の講を読んで、予習をしておく。					
[教科書] 子どもの未来を支える社会的養護 （ミネルヴァ書房）			[成績評価の方法] 授業態度（10%）、演習・レポート課題（40%） 筆記試験（50%）		
[備考] 福祉現場経験のある教員が、その経験を活かして社会的養護について講義と演習を通して指導する。					

授 業 概 要

2025 年度

保育原理		講義		担当者	実務経験
				小山 優子	○
15 回	30 時間（2 単位）	2 年 前期		必修	
[授業の目的・ねらい] 保育の基礎・基本となる保育の基本理念や考え方、方法を学び、保育実践に役立つ知識を身につけることを目的とする。特に、保育の本質の理解と保育の実践的視点を習得するとともに、子どもをとりまく現状や保育の現代的課題の理解を目指す。 [授業の内容] 保育所保育指針等 に示されている保育の意義や保育の基本を踏まえ、保育の目的や目標、保育の内容と方法を講義を通して理解する。 [達成課題（到達目標）] 授業の学習目標は、(1)保育者の役割や子ども理解の視点を身につける、(2)環境構成や保育形態、保育の計画など、保育の方法の視点を理解する、(3)保育の思想や歴史を理解し、保育の現状と課題を知る、である。					
[授業計画] 1. 保育所・幼稚園の制度的位置づけ、保育の目的と目標① 2. 保育の目的と目標② 3. 保育所の役割（保育所保育指針） 4. 幼稚園の役割（幼稚園教育要領） 5. 集団保育の意義 6. 「環境による教育」とは① 7. 「環境による教育」とは② 8. 保育方法と保育形態 9. 多様化する保育ニーズ 10. 養護と教育 11. 家庭・保護者の役割 12. 遊びと生活、環境構成の工夫 13. 現代の子育て環境と子育て支援 14. 保育内容と領域、保育の現代的問題 15. 筆記試験・まとめ					
[事前・事後学習の内容] ・毎回の授業で視聴する保育や子どもに関するビデオの視聴メモをとり、15 回目の授業終了後に全体的なまとめのレポートを作成する。 ・レポート課題のビデオ視聴メモ（まとめ）は必ず提出すること。					
[教科書・参考文献] ・北野幸子『乳幼児カリキュラム論』建帛社 ・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館			[成績評価の方法] 成績は、レポート課題(50%)、テスト(50%)、2/3 以上の出席回数等を考慮して、総合的に評価する。		
[備考] 教育機関（短期大学・大学）で幼児教育に携わった教員が、その経験を活かして教授活動を行う。					

授 業 概 要

2025 年度

児童家庭福祉		講義		担当者	実務経験
				馬淵 芳美	○
15 回	30 時間（2 単位）	2 年 前期	必修		
[授業の目的・ねらい]					
・現代社会における児童家庭福祉の理念、歴史的変遷について理解する。 ・児童家庭福祉の制度と実施体制等について理解する。 ・児童家庭福祉における児童の人権擁護及び支援等について理解する。					
[授業の内容]					
・保育者に必要な基礎知識の習得を図り、自ら考えることができるよう理解を促す。					
[達成課題（到達目標）]					
・児童家庭福祉における現状と課題を理解する。					
[授業計画]					
1. 子ども家庭福祉の理念と概念 2. 子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向 3. 子どもの人権擁護 4. 子ども家庭福祉の制度と実施体系 5. 子ども家庭福祉の施設と専門職 6. 少子化と地域子育て支援 7. 母子保健と子どもの健全育成 8. 多様な保育ニーズへの対応 9. 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止 10. 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 11. 社会的養護 12. 障害のある子どもへの対応 13. 少年非行等への対応 14. 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 15. 地域における連携・協働とネットワーク、筆記試験					
[事前・事後学習の内容]					
次の授業内容のテキストを事前に読んでおく					
[教科書]			[成績評価の方法]		
子ども家庭福祉【第2版】（中央法規）			筆記試験（60%）		
[参考文献]			課題・演習・小テスト（20%）		
図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉(萌文書林)			レポート（20%）		
子どもと家庭の福祉を学ぶ《改訂版》（ななみ書房）					
[備考]					
福祉現場経験のある教員が、その経験を活かし講義を行う。					

授 業 概 要

2025 年度

家庭支援論		講義		担当者	実務経験
				栃木 智美	○
15 回	30 時間（2 単位）	2 年 前期	必修		
[授業の目的・ねらい] 子育て家庭を取り巻く現状を知り、それに伴い保育者に必要とされる相談援助技術や、社会に広がるネットワーク・関係機関の機能及び連携を理解する。					
[授業の内容] ・子ども家庭支援の意義と役割について、講義・演習を通し理解を深める。 ・相談者・支援者を体験するロールプレイや記録物の書き方を学び、保育現場での相談支援の方法を習得する。					
[達成課題（到達目標）] ・保育の専門性を活かした、子ども家庭支援の意義と基本について説明出来る。 ・保育現場に必要な相談援助技術を実践することができる。					
[授業計画] 1. 保育所における家庭支援の原理 2. 保育所における家庭支援の具体 3. 保育所における相談援助技術とは 4. 保育所における情報発信① 5. 保育所における情報発信② 6. 保育所における情報発信③ 7. 保育者と保護者を結ぶ連絡帳① 8. 保育者と保護者を結ぶ連絡帳② 9. 保育者と保護者を結ぶ連絡帳③ 10. 保育者と保護者を結ぶ連絡帳④ 11. 相談援助のロールプレイ① 12. 相談援助のロールプレイ② 13. 地域関係機関との連携① 14. 地域関係機関との連携② 15. 地域関係機関との連携③					
[事前・事後学習の内容] 配布した資料を使用し、予習・復習を行う。					
[参考文献] 適宜、プリント資料配布		[成績評価の方法] 出席状況（30%）演習の取り組み（40%） 提出課題（30%）			
[備考] 保育現場での保育士経験がある教員が、その経験を活かして保育者による相談援助技術について演習を通し指導する。					

授 業 概 要

2025 年度

発達心理学		講義		担当者	実務経験
				澤口 右京	
15 回	30 時間（2 単位）	2 年 前期	必修		
[授業の目的・ねらい] この講義では、生涯発達の観点から、生涯を通じた人の発達を学ぶ。 [授業の内容] 乳児期、児童期、青年期、成人期、老年期と人の一生における発達について学ぶ。 [達成課題（到達目標）] 子どもに限定することなく、幅広く人の発達を理解することを目標とする。子どもは成長しいつか老人になる。そこに至る過程を視野に入れ、改めて子どもの発達の意味について理解することを目指す。					
[授業計画] 1. 発達心理学概論 2. 発達段階説 3. 乳児期・幼児期の発達 1 4. 乳児期・幼児期の発達 2 5. 学童期の発達 1 6. 学童期の発達 2 7. 青年期の発達 1 8. 青年期の発達 2 9. 青年期の発達 3 10. 青年期の発達 4 11. 成人期の発達 1 12. 成人期の発達 2 13. 老人期の発達 1 14. 老人期の発達 2 15. 課題研究					
[事前・事後学習の内容] 授業中に配布したプリントを用いて復習を行うこと。					
[参考文献] 配布資料			[成績評価の方法] レポート (40%)、筆記試験 (60%)		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

乳幼児心理学		講義		担当者	実務経験
				澤口 右京	
15 回	30 時間（2 単位）	2 年 前期	必修		
[授業の目的・ねらい] 人の発達のうち、とりわけ乳幼児期に焦点を当て、発達の知識を獲得することを目指す。 [授業の内容] 乳幼児期における発達的内容を取り上げる。 [達成課題（到達目標）] とりわけ乳幼児期の発達を学ぶことで、保育士として必要な、子どもの「心」への理解を深めることを目指す。					
[授業計画] 1. 乳幼児心理学概論 2. 遺伝と環境 3. 運動機能の発達 4. 親子関係の展開 5. 言語の発達 6. コミュニケーションの発達 1 7. コミュニケーションの発達 2 8. 認知の発達 9. 感情の発達 10. 記憶の発達 11. 思考の発達 12. 人格の発達 13. 遊びの発達 14. 道徳性の獲得 15. 課題研究					
[事前・事後学習の内容] 授業中に配布したプリントを用いて復習を行うこと。					
[教科書] 高橋一公・中川桂子 編著 発達心理学 15 講 北大路書房			[成績評価の方法] レポート(40%)、筆記試験(60%)		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

教育相談		演習		担当者	実務経験
				澤口 右京	
15 回	30 時間（1 単位）	2 年 前期	必修		
[授業の目的・ねらい] この授業では、子どもの発達や学びを把握し、理解するための知識を習得することを目指す。 [授業の内容] 保育士として必要な対人援助についての基礎的知識や態度について、カウンセリングの観点を踏まえて学ぶ。 [達成課題（到達目標）] 対人援助についての知識や技能について学ぶ。カウンセリングの基礎についても学び、対人援助職として必要な技術や態度の習得を目指す。 [授業計画] 1. 教育相談・カウンセリング概論 2. 子どもの発達の援助 1 3. 子どもの発達の援助 2 4. アセスメント 5. カウンセリングの理論と方法 1 6. カウンセリングの理論と方法 2 7. カウンセリングマインド 1 8. カウンセリングマインド 2 9. 園における教育相談の意義と活用 10. 登園拒否の理解と指導 11. 社会性の発達とつまずきへの理解と対応 12. 遊びの意義と教育相談 13. 子育て・保護者の支援 14. 保育者のメンタルヘルス 15. 課題研究					
[事前・事後学習の内容] 配布プリントをもとに復習をおこなうこと。					
[参考文献] 配布資料			[成績評価の方法] 演習(40%)、レポート(30%)、筆記試験(30%)		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

子どもの健康と安全		演習		担当者	実務経験
				黒田 慎太郎	○
8 回	15 時間（1 単位）	2 年 後期	必修		
[授業の目的・ねらい] ・ 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 ・ 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 ・ 子どもの体調不良に関する適切な対応について具体的に理解する。 ・ 子どもの健康及び安全管理に関わる組織的取組について理解する。					
[授業の内容] ・ 保健的観点を踏まえた保育環境の整備及び感染症対策を学ぶ。 ・ 保育における健康及び安全の管理を学び、子どもの体調不良に対する適切な対応を学ぶ。 ・ 健康及び安全管理の実施体制を学ぶ。					
[達成課題（到達目標）] ・ 子どもの健康と安全について理解し、保育所における健康及び安全管理の説明ができる。					
[授業計画] 1. 健康、安全とは 2. 子どもの健康と安全 子どもの成長発達と健康・子どもを取り巻く環境と安全 3. 保育における健康および安全管理 安全管理の実施体制 4. 子どもの事故とその予防 子どもの事故の特徴、 事故やけがの予防 5. 集団生活における感染症発生時の対処 感染予防・子どもに多い感染症とその対処 6. 災害への備えと危機管理と、個別的な配慮を要する子どもへの対応 7. 災害時に求められる安全行動、避難支援 8. まとめ					
[事前・事後学習の内容] 教科書を読んでおく。配布したプリントを基に復習しておく。					
[教科書・参考文献] 子どもの健康と安全 改訂第2版（中山書店）			[成績評価の方法] 授業態度（20%） 演習の取り組み（20%） 課題レポート（60%）		
[備考] 保育現場での経験がある教員が、その経験を活かし講義を行う。					

授 業 概 要

2025 年度

子どもの食と栄養		演習	担当者	実務経験		
			福田 詩織	○		
			川谷 真由美	○		
30 回	60 時間（2 単位）	2 年・通年	必修			
[授業の目的・ねらい] 子どもの食生活や栄養について正しい知識を習得し、学んだ知識を保育の現場で実践し発展することができる力を身につける。 [授業の内容] 食生活の意義・栄養に関する基本的な知識や、保育における食育の意義・目的、基本的な考え方について理解する。また、食を通した地域社会や文化との関わりから、実践的な食育について考える。 [達成課題（到達目標）] 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解し、ガイドラインを踏まえた実践的な食事の提案や食育活動ができる。						
[授業計画] <table><tr><td> 【前期】 1. 子どもの心身の健康と食生活 2. 子どもの食生活の現状と課題 3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 4. 乳幼児の食事摂取基準と食生活指針 5. 献立作成と調理の基本（実習） 6. 授乳期の食生活と母乳分泌 7. 乳汁期の食生活の特徴 8. 離乳期の食生活と栄養の特徴、離乳食の役割 9. 離乳食の与え方 10. 離乳食の献立と作り方（実習） 11. 幼児期の食生活と栄養の特徴と献立作成 12. 幼児期の食生活の問題点 13. 幼児期の間食（実習） 14. 学童期、思春期の食生活と栄養、生涯の食生活 15. 筆記試験・まとめ </td><td> 【後期】 1. 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方 2. 食育の内容と計画および評価 3. 食育のための環境 4. 地域の関連機関や職員間の連携 5. 食生活指導および食をととした保護者への支援 6. 食育の現状と今後の課題 7. 保育所における食育活動の指導計画の作成 8. 保育所における食育活動の実施と評価 9. 家庭における食事と栄養 10. 児童福祉施設における食事と栄養 11. 疾病および体調不良の子どもへの対応 12. 食物アレルギーのある子どもへの対応 13. 障害のある子どもへの対応 14. 緊急時・災害時への対応 15. 筆記試験・まとめ </td></tr></table>					【前期】 1. 子どもの心身の健康と食生活 2. 子どもの食生活の現状と課題 3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 4. 乳幼児の食事摂取基準と食生活指針 5. 献立作成と調理の基本（実習） 6. 授乳期の食生活と母乳分泌 7. 乳汁期の食生活の特徴 8. 離乳期の食生活と栄養の特徴、離乳食の役割 9. 離乳食の与え方 10. 離乳食の献立と作り方（実習） 11. 幼児期の食生活と栄養の特徴と献立作成 12. 幼児期の食生活の問題点 13. 幼児期の間食（実習） 14. 学童期、思春期の食生活と栄養、生涯の食生活 15. 筆記試験・まとめ	【後期】 1. 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方 2. 食育の内容と計画および評価 3. 食育のための環境 4. 地域の関連機関や職員間の連携 5. 食生活指導および食をととした保護者への支援 6. 食育の現状と今後の課題 7. 保育所における食育活動の指導計画の作成 8. 保育所における食育活動の実施と評価 9. 家庭における食事と栄養 10. 児童福祉施設における食事と栄養 11. 疾病および体調不良の子どもへの対応 12. 食物アレルギーのある子どもへの対応 13. 障害のある子どもへの対応 14. 緊急時・災害時への対応 15. 筆記試験・まとめ
【前期】 1. 子どもの心身の健康と食生活 2. 子どもの食生活の現状と課題 3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 4. 乳幼児の食事摂取基準と食生活指針 5. 献立作成と調理の基本（実習） 6. 授乳期の食生活と母乳分泌 7. 乳汁期の食生活の特徴 8. 離乳期の食生活と栄養の特徴、離乳食の役割 9. 離乳食の与え方 10. 離乳食の献立と作り方（実習） 11. 幼児期の食生活と栄養の特徴と献立作成 12. 幼児期の食生活の問題点 13. 幼児期の間食（実習） 14. 学童期、思春期の食生活と栄養、生涯の食生活 15. 筆記試験・まとめ	【後期】 1. 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方 2. 食育の内容と計画および評価 3. 食育のための環境 4. 地域の関連機関や職員間の連携 5. 食生活指導および食をととした保護者への支援 6. 食育の現状と今後の課題 7. 保育所における食育活動の指導計画の作成 8. 保育所における食育活動の実施と評価 9. 家庭における食事と栄養 10. 児童福祉施設における食事と栄養 11. 疾病および体調不良の子どもへの対応 12. 食物アレルギーのある子どもへの対応 13. 障害のある子どもへの対応 14. 緊急時・災害時への対応 15. 筆記試験・まとめ					
[事前・事後学習の内容] 教科書の内容を踏まえた上で、講義内容と現実の食生活を結びつけながら復習すること。						
[教科書] 発育期の子どもの食生活と栄養【第 4 版 2 刷】（学建書院）		[成績評価の方法] 演習レポート（10%）、出席（20%）、筆記試験（70%） *但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする。				
[備考] 教育機関（大学）で栄養学に携わった教員が、その経験を活かして教授活動を行う。						

授 業 概 要

2025 年度

保育内容「言葉」		演習		担当者	実務経験
				栃木 智美	○
8 回	15 時間（1 単位）	2 年 後期	必修		
[授業の目的・ねらい] 保育所保育指に示される、領域「言葉」について子ども・保育者・児童文化財の 3 つの視点に分けて理解する。 [授業の内容] 保育所保育指針を基に、言葉によって育まれる自己表現や他者理解など、人との関わりを豊かにする幼児期の「言葉」・児童文化財について具体的に学ぶ。 [達成課題（到達目標）] 保育所保育指針における、領域「言葉」について理解し説明することが出来る。					
[授業計画] 1. 言葉の獲得に関する領域「言葉」① 2. 言葉の獲得に関する領域「言葉」② 3. 言葉の獲得に関する領域「言葉」③ 4. 言葉の獲得に関する領域「言葉」④ 5. 言葉の獲得に関する領域「言葉」⑤ 6. 言葉と児童文化財① 7. 言葉と児童文化財② 8. 言葉と児童文化財③					
[事前・事後学習の内容] 演習に必要な情報の収集、まとめ、教材の準備等を確実にしておく。					
[教科書] 保育所保育指針解説（フレーベル館） [参考文献] 適宜、プリント等資料配布			[成績評価の方法] 授業態度（30%）、演習課題（50%） 出席状況（20%）		
[備考] 保育現場での保育士経験がある教員が、その経験を活かして領域「健康」について指導する。					

授 業 概 要

2025 年度

障害児保育総論		演習		担当者	実務経験
				原 広治	○
15 回	30 時間（2 単位）	2 年 前期	必修		
[授業の目的・ねらい]					
・時代の変化に即し、子育て・子育て支援の観点から、障害のある乳幼児に対する保育について、理論と実践を往還しながら理解を深める。					
[授業の内容]					
・様々な障害特性の理解をふまえ、障害のある乳幼児の育ちを支える保育について、実際の保育臨床をとおして理解する。					
・障害のある乳幼児からみた保育や保育者のかかわりがイメージできるようになる。					
[達成課題（到達目標）]					
・障害のある乳幼児の育ちを支えるかかわりについて、実践をとおして理解し、その概要を説明することができる。					
[授業計画]					
1. 障害のある子と家族の暮らし					
2. 発達検査とその活用					
3. エピソード記述とその実際					
4. 保育計画の作成と評価					
5. 障害のある子の保育臨床Ⅰ①					
6. 障害のある子の保育臨床Ⅰ②					
7. 保育臨床の振り返りⅠ①					
8. 保育臨床の振り返りⅠ②					
9. 障害のある子の保育臨床Ⅱ①					
10. 障害のある子の保育臨床Ⅱ②					
11. 保育臨床の振り返りⅡ①					
12. 保育臨床の振り返りⅡ②					
13. 障害のある子の保育臨床発表①					
14. 障害のある子の保育臨床発表②					
15. まとめ					
[事前・事後学習の内容]					
・教科書は関係する箇所を重点的に活用することから、全体を精読すること。					
・保育観察や保育の実際に関する事前・事後の協議を行い、小レポートを作成する。					
[教科書]			[成績評価の方法]		
・『障害のある子とともに歩んだ 20 年』（ミネルヴァ書房）			・試験・課題レポート(70%)		
＜参考文献＞			・小レポート(20%)		
・『子どもの心の育ちをエピソードで描く』（ 同 ）			・発表・協議の内容や学習態度・授業に対する積極性(10%)		
『保育の場で子どもの心をどのように育むのか』（ 同 ）					
[備考]					
特別支援教育の実践や教育行政、療育活動や教育相談等の業務に携わった経験をもつ教員が、その経験を活かして、子どもとその周囲にあるヒト・モノ・コトとの関係の視点から、障害児保育の実際について講義する。					

授 業 概 要

2025 年度

社会的養護Ⅱ		演習		担当者	実務経験
				馬淵 芳美	○
15 回	30 時間（1 単位）	2 年 後期	必修		
[授業の目的・ねらい] 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基本的な内容について、具体的な事例を踏まえて理解する。					
[授業の内容] ・施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 ・社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 ・社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 ・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。					
[達成課題（到達目標）] ・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、説明することができる。					
[授業計画] 1. 子どもの権利擁護 2. 社会的養護における子どもの理解 3. 社会的養護の内容①演習（日常生活支援） 4. 社会的養護の内容②演習（心理的支援） 5. 社会的養護の内容③演習（自立支援） 6. 施設養護の生活特性および実際①（乳児院等） 7. 施設養護の生活特性および実際②（障害児施設等） 8. 家庭養護の生活特性および実際 9. 個別支援計画の作成① 10. 個別支援計画の作成② 11. 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識とその実践 12. 社会的養護における保育の専門性にかかわる相談援助の知識・技術とその実践 13. 社会的養護におけるソーシャルワーク 14. 社会的養護における家庭支援 15. 今後の社会的養護の課題と展望					
[事前・事後学習の内容] ・教科書の示すページについて予習・復習しておく。					
[教科書] 子どもの未来を支える社会的養護（ミネルヴァ書房） [参考文献] みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護（みらい）			[成績評価の方法] 小テスト（15%）・授業態度（15%） 演習課題・レポート課題（70%）		
[備考] 福祉現場経験のある教員が、その経験を活かして社会的養護について講義と演習を通して指導する。					

授 業 概 要

2025 年度

子育て支援		演習		担当者	実務経験
				馬淵 芳美	○
15 回	30 時間（1 単位）	2 年 後期	必修		
[授業の目的・ねらい] 保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。					
[授業の内容] 基本的知識や方法・技術を講義で学び、実際の支援については地域の「子ども発達支援施設」「子育て支援センター」での体験を通して理解する。					
[達成課題（到達目標）] ・支援とは、子ども・保護者を安心させてあげることが基本原則であることを、実践を通して理解する。 ・「安心」をテーマに子ども・保護者とのかかわることができる。					
[授業計画] 1. よりよい子育て支援のために 2. 子育て支援に生かすカウンセリングの理論① 3. 子育て支援に生かすカウンセリングの理論② 4. 子育て支援に生かすカウンセリングの技法 5. 日常の保護者とのかかわり方 6. 養育困難を抱える保護者への支援 7. 障害のある子どもをもつ保護者への支援① 8. 障害のある子どもをもつ保護者への支援② 9. 精神疾患の疑いのある保護者の理解と対応① 10. 精神疾患の疑いのある保護者の理解と対応② 11. 親としての成長を支える 12～14. 子ども発達支援施設、子育て支援センターでの取り組み 15. まとめ					
[事前・事後学習の内容] 教科書や授業中に配布したプリントを用いて復習を行うこと。 授業で作成するワークシートは必ず提出すること。					
[教科書] 子育て支援カウンセリング（図書文化） [参考文献] 保育実践に求められる子育て支援（ミネルヴァ書房） 子育て支援～15 のストーリーで学ぶワークブック～(萌文書林) 保護者支援～保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援～[新版](風鳴舎)				[成績評価の方法] 授業態度（10%）、 演習課題（30%）、 ワークシート（30%）、 単元テスト（30%）	
[備考] 福祉現場経験のある教員が、その経験を活かして講義と演習を行う。					

授 業 概 要

2025 年度

ピアノⅡ		演習	担当者	実務経験
			白川 浩	○
			白川 千春	○
15 回	30 時間（1 単位）	2 年 通年	必修	
[授業の目的・内容]				
季節の歌、動植物の歌、生活・行事の歌など、様々な子どもの歌の弾き歌いに取り組みレパートリーを増やす。子どもの発達に留意した上で、楽曲にふさわしい弾き歌いとなるよう教材をよく理解し、表情豊かな音楽表現を工夫する。ピアノ技術は個別に課題を出して習得する。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
1. オリエンテーション、弾き歌いの実践				
2. 弾き歌い曲の実践 「にじ」				
3. 弾き歌い曲の実践 「あめふりくまのこ」 p74（コード）				
4. 弾き歌い曲の実践 「小さな世界」 p134（コード）				
5. 弾き歌い曲の実践 「うれしいひなまつり」 p146（コード）				
6. 弾き歌い曲の実践 「はたけのポルカ」 p 165（こどものうた）				
7. 弾き歌い曲の復習 「どんぐりころころ」 p33（コード）				
8. 弾き歌い曲の実践 「おもちゃのチャチャチャ」 p78（コード）				
9. 弾き歌い曲の実践 「おつかいありさん」 p95（コード）				
10. 弾き歌い曲の実践 「茶つみ」 p82（コード）				
11. 弾き歌い曲の実践 「思い出のアルバム」 p 157、158（こどものうた） p124（コード）				
12. 弾き歌い曲の実践 「一年生になったら」 p 147、148（こどものうた）				
13. 実技試験での課題曲の選定（弾き歌い曲 2 曲、ピアノ独奏曲 1 曲）				
14. 実技試験曲の練習				
15. 実技試験（発表会形式）				
＊ピアノ独奏曲は弾き歌い曲と並行して個別に与えられた課題曲に取り組む				
＊概ね 7 回目後、中間試験を実施する				
[事前・事後学習の内容]				
・ 毎回、新しい課題曲を出すので、次回までに弾けるように（歌えるように）準備をしておく。				
・ 既習曲は必ず繰り返し復習し、どんどんレパートリーを増やす。				
[教科書]		[成績評価の方法]		
◇こどものうた 100（チャイルド本社）		実技試験出席(80%)、出席・授業態度(20%)。		
◇3 つのコードで楽しく弾ける ピアノ伴奏曲集		※実技試験については、音間違いが無く、適切な速度		
伊藤伸明 ドレミ楽譜出版社		と音量で、止まらずに弾けることを目標とする。課題		
適宜、個別に課題曲を出す。		曲 1 曲につき、間違い・止まるなどが累計 5 回とな		
		った時点で素点は 60 点未満となり、再試験となる。		
[備考]				
教育機関（短期大学・大学）で音楽教育に携わった教員が、その経験を活かして教授活動を行う。				

授 業 概 要

2025 年度

造形表現Ⅱ		演習		担当者	実務経験																														
				高橋 恭子 黒田 慎太郎	○																														
30 回	60 時間（2 単位）	2 年 通年	必修																																
[授業の目的・ねらい] 子どもの心情や主体性を大切にし、共に豊かな感性表現力を養い創造力を身につける。																																			
[授業の内容] ・プロジェクト学習を見据えて、さらに多様な表現活動を実践していく。 ・保育士自らの個性を伸ばし、独自のプログラム構成の経験を積み重ねていく。																																			
[達成課題（到達目標）] 現場での適切な指導と援助ができることを目指し、自ら学び続ける姿勢や主体的、対話的にプログラム構成や企画等ができるようになる。																																			
[授業計画] <table><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>16. 卒業制作について</td></tr><tr><td>2. 幼児と造形表現について</td><td>17. 劇</td></tr><tr><td>3. 幼児と造形表現について</td><td>18. オペレッタ</td></tr><tr><td>4. 絵画技法</td><td>19. ペープサート</td></tr><tr><td>5. 表現技法の応用①</td><td>20. パネルシアター</td></tr><tr><td>6. 表現技法の応用②</td><td>21. 卒業制作 ①</td></tr><tr><td>7. 立体表現技法①</td><td>22. 卒業制作 ②</td></tr><tr><td>8. 立体表現技法②</td><td>23. 卒業制作 ③</td></tr><tr><td>9. 立体表現技法③</td><td>24. 卒業制作 ④</td></tr><tr><td>10. 「表現」のねらいと内容</td><td>25. 卒業制作 ⑤</td></tr><tr><td>11. 造形活動の原理</td><td>26. 卒業制作 ⑥</td></tr><tr><td>12. 造形活動の展開①</td><td>27. 卒業制作 ⑦</td></tr><tr><td>13. 造形活動の展開②</td><td>28. 卒業制作 ⑧</td></tr><tr><td>14. 造形活動の展開③</td><td>29. 発表リハーサル</td></tr><tr><td>15. 造形活動の展開④</td><td>30. 卒業発表</td></tr></table>						1. オリエンテーション	16. 卒業制作について	2. 幼児と造形表現について	17. 劇	3. 幼児と造形表現について	18. オペレッタ	4. 絵画技法	19. ペープサート	5. 表現技法の応用①	20. パネルシアター	6. 表現技法の応用②	21. 卒業制作 ①	7. 立体表現技法①	22. 卒業制作 ②	8. 立体表現技法②	23. 卒業制作 ③	9. 立体表現技法③	24. 卒業制作 ④	10. 「表現」のねらいと内容	25. 卒業制作 ⑤	11. 造形活動の原理	26. 卒業制作 ⑥	12. 造形活動の展開①	27. 卒業制作 ⑦	13. 造形活動の展開②	28. 卒業制作 ⑧	14. 造形活動の展開③	29. 発表リハーサル	15. 造形活動の展開④	30. 卒業発表
1. オリエンテーション	16. 卒業制作について																																		
2. 幼児と造形表現について	17. 劇																																		
3. 幼児と造形表現について	18. オペレッタ																																		
4. 絵画技法	19. ペープサート																																		
5. 表現技法の応用①	20. パネルシアター																																		
6. 表現技法の応用②	21. 卒業制作 ①																																		
7. 立体表現技法①	22. 卒業制作 ②																																		
8. 立体表現技法②	23. 卒業制作 ③																																		
9. 立体表現技法③	24. 卒業制作 ④																																		
10. 「表現」のねらいと内容	25. 卒業制作 ⑤																																		
11. 造形活動の原理	26. 卒業制作 ⑥																																		
12. 造形活動の展開①	27. 卒業制作 ⑦																																		
13. 造形活動の展開②	28. 卒業制作 ⑧																																		
14. 造形活動の展開③	29. 発表リハーサル																																		
15. 造形活動の展開④	30. 卒業発表																																		
[事前・事後学習の内容] ・これまでの学びをまとめ、事前に振り返りができるように準備する。 ・学習の成果や自分の変容を工夫して記録する。																																			
[教科書] 実践保育内容 シリーズ6 造形表現（一藝社） 幼稚園教育要領解説（フレーベル館） 保育所保育指針解説書（フレーベル館）		[成績評価の方法] 前期）A 知識技能 B 思考判断 C 学びに向かう姿勢 作品スクラップ（ポートフォリオ）40%） 授業レポート（40%）：最終まとめのレポートも含む 平常点（出席、受講姿勢）（20%）																																	
		後期） 演習への取り組み(40%)、発表内容(40%)、製作物（20%）																																	
[備考] 美術教育に携わった教員が、その経験を活かして教授活動を行う。 幼児教育・保育現場での経験がある教員が、その経験を活かし授業展開及び指導する。																																			

授 業 概 要

2025 年度

保育実習Ⅰ（施設）		実習	担当者 馬淵 芳美	実務経験
10 日	90 時間（2 単位）	2 年 後期	必修	
[授業の目的・ねらい] ・ 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ・ 観察や児童・利用者との関わりを通して児童・利用者への理解を深める。 ・ 既習の教科目の内容を踏まえ、児童・利用者及び保護者への支援について総合的に理解する。 ・ 保育の計画、観察、記録及び自己評価について具体的に理解する。 ・ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
[授業の内容] これまで習得した各教科の理論・知識・技術を基礎とし、児童福祉施設において保育を実践する力を養う。 また、ひとりひとりの児童の背景等も踏まえながら、理解しようとするかかわり方に努める。				
[達成課題（到達目標）] 10 日間の実習を通して、児童の理解を深め、児童福祉施設における保育士としての自己課題を見つける。				
[授業計画] 1. 施設の役割と機能 （1）施設における児童・利用者の生活と保育士の援助や関わり （2）施設の役割と機能 2. 児童・利用者の理解 （1）児童・利用者の観察とその記録 （2）個々の状態に応じた援助や関わり 3. 施設における児童・利用者の生活と環境 （1）計画に基づく活動や援助 （2）児童・利用者の心身の状態に応じた生活と対応 （3）児童・利用者の活動と環境 （4）健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 （1）支援計画の理解と活用 （2）記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 （1）保育士の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携 （3）保育士の役割と職業倫理				
[事前・事後学習の内容] 実習先の児童福祉施設の概要を事前に調べておく。				
[教科書] 改訂版 施設実習パーフェクトガイド（わかば社） [参考文献] 保育実習要綱		[成績評価の方法] 評価表にて検討		
[備考]				

授 業 概 要

2025 年度

保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導		演習		担当者	実務経験		
				馬淵 芳美			
15 回	30 時間（1 単位）	2 年 後期	必修				
[授業の目的・ねらい] ・ 児童福祉施設実習の意義・目的を理解する。 ・ 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ・ 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ・ 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 [授業の内容] 事前指導では、施設実習の目的・意義について学び、児童・利用者にはそれぞれの背景があることを知識的に学ぶ。また、児童福祉施設の種別の特色について調べ、18 歳まで対象の児童に対する指導案の書き方、保育日誌の書き方を指導する。 事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 [達成課題（到達目標）] 事前学習を充分に行い、実習を通して児童福祉施設の保育士の役割を理解する。							
[授業計画] <table><tr><td> 【事前指導】 1. 施設実習とは 2. 実習への準備…実習への心構え 3. 実習施設の基本的理解 4. 実習施設の事前学習 5. 実習施設の事前訪問（事前オリエンテーション） 6. 施設実習の目標 7. 実習施設の事前学習② 8. 実習日誌の書き方 9. 実習日誌の書き方 10. 指導案の書き方 </td><td> 【事後指導】 11. 実習施設へのお礼状作成 12. 実習の振り返りと自己評価 13. 実習の総括と課題の明確化 14. 発表「実習報告」 15. 実習の総括（保育実習Ⅱ 又はⅢに向けて） </td></tr></table>						【事前指導】 1. 施設実習とは 2. 実習への準備…実習への心構え 3. 実習施設の基本的理解 4. 実習施設の事前学習 5. 実習施設の事前訪問（事前オリエンテーション） 6. 施設実習の目標 7. 実習施設の事前学習② 8. 実習日誌の書き方 9. 実習日誌の書き方 10. 指導案の書き方	【事後指導】 11. 実習施設へのお礼状作成 12. 実習の振り返りと自己評価 13. 実習の総括と課題の明確化 14. 発表「実習報告」 15. 実習の総括（保育実習Ⅱ 又はⅢに向けて）
【事前指導】 1. 施設実習とは 2. 実習への準備…実習への心構え 3. 実習施設の基本的理解 4. 実習施設の事前学習 5. 実習施設の事前訪問（事前オリエンテーション） 6. 施設実習の目標 7. 実習施設の事前学習② 8. 実習日誌の書き方 9. 実習日誌の書き方 10. 指導案の書き方	【事後指導】 11. 実習施設へのお礼状作成 12. 実習の振り返りと自己評価 13. 実習の総括と課題の明確化 14. 発表「実習報告」 15. 実習の総括（保育実習Ⅱ 又はⅢに向けて）						
[事前・事後学習の内容] 「保育実習Ⅰ」における課題から、施設実習における目標を考える。							
[教科書] 改訂版 施設実習パーフェクトガイド わかば社 [参考文献] 保育実習要綱			[成績評価の方法] 授業態度（50%）、 課題提出（50%）				
[備考]							

授 業 概 要

2025 年度

保育実習Ⅱ		実習		担当者	実務経験
				栃木 智美	○
10 日	90 時間（2 単位）	2 年 後期	必修		
[授業の目的・ねらい] ・ 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ・ 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ・ 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 ・ 保育の計画・実践・観察、記録及び自己評価等について、実際に取り組み理解を深める。 ・ 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 ・ 実習における自己の課題を明確化する。 [授業の内容] 保育実習Ⅰで得た経験を基に、積極的に実習に参加する。また、指導実習に対して指導案の作成と実施に対する技術向上を行う。 [達成課題（到達目標）] ・ 10 日間の実習を通して、保育所の役割と機能について具体的に理解する。 ・ 指導案の作成・実施を通して、保育士に求められる遊びの展開における専門性について理解する。					
[授業計画] 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育の理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の援助や関わり (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通し、総合的に行う保育 (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 (3) 関係機関や地域社会との連携・協働 4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の課程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士業務 (2) 多様な保育の展開と保育士業務の職業倫理 6. 自己の課題の明確化					
[事前・事後学習の内容] ・ 実習園の概要を事前に調べておく。 ・ 指導実習に必要な教材、実技練習をしておく。					
[参考文献] 保育実習要綱 適宜、プリント資料配布			[成績評価の方法] 評価表にて検討		
[備考] 保育現場での保育士経験がある教員が、巡回訪問にて保育実践、記録物等について指導・助言をする。					

授 業 概 要

2025 年度

保育実習Ⅲ		実習		担当者	実務経験
				馬淵 芳美	
10 日	90 時間（2 単位）	2 年 後期	必修		
[授業の目的・ねらい] ・既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。 ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のため知識、技術、判断力を養う。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ・実習における自己の課題を理解する。					
[授業の内容] 保育実習Ⅰ（施設）で習得した知識及び経験・実践した支援・援助技術を用いて、積極的な姿勢で実習をする。また、個別支援計画に基づいて様々な専門職との連携を通して、児童の育ちが保障されていることを実践を通して学ぶ。					
[達成課題（到達目標）] ・実践を通して、児童福祉施設の役割や機能を理解する。 ・保育士は、児童福祉施設における専門職の一職種として連携・協働していくことを理解する。					
[授業計画] 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 2. 施設における支援の実際 (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の理解と実践 (4) 子ども（利用者）の家族への支援と対応 (5) 各施設における多様な専門職との連携・協働 (6) 地域社会との連携・協働 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化					
[事前・事後学習の内容] ・実習施設の概要を事前に調べておく。 ・実習に必要な教材を準備する。					
[教科書] 改訂版 施設実習パーフェクトガイド（わかば社）		[成績評価の方法] 評価表にて検討			
[参考文献] 保育実習要綱					
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

保育実習Ⅱ 事前事後指導		演習	担当者	実務経験
			栃木 智美	○
10 回	20 時間（1 単位）	2 年 後期	選択必修	
[授業の目的・ねらい] ・ 保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ・ 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・ 保育の観察、記録及び自己評価等をふまえた保育の改善について、実践や事例をとおして理解する。 ・ 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 [授業の内容] 保育実習Ⅰの学びを基に、自己課題に対する研鑽を行い指導実習に向け実践力を習得する。 実習を振り返り、評価・反省、自己課題を明確にして保育士として技術向上に努める。 [達成課題（到達目標）] 保育実習Ⅱの総合的な自己評価をし、保育士をめざす自身の課題を明確にする。				
[授業計画] 【事前指導】 1. 保育実習Ⅱの意義と目的 2. 実習内容の理解① 3. 実習内容の理解② 4. 事前オリエンテーション 5. 指導案の立案と教材研究① 6. 指導案の立案と教材研究② 7. 指導案の立案と教材研究③ 【事後指導】 8. 自己評価及び実習報告 9. 自己課題の明確化 10. 日誌の修正				
[事前・事後学習の内容] 指導実習に向けて、指導案の作成練習や教材研究をしておく。 保育実習日誌等の不備の確認をし、指定された様式をすべてファイル綴じて提出する。				
[参考文献] 保育実習要綱 適宜、プリント資料配布		[成績評価の方法] 授業態度（40％）、課題提出（40％） 出席（20％）		
[備考] 保育現場での保育士経験がある教員が、現場で実習指導をした経験を活かし、実習の心得、記録物等の指導をする。				

授 業 概 要

2025 年度

保育実習Ⅲ事前事後指導		演習		担当者	実務経験
				馬淵 芳美	
10 回	20 時間（1 単位）	2 年 後期	選択必修		
[授業の目的・ねらい] ・施設実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ・実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・保育の観察、記録及び自己評価等をふまえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 [授業の内容] 事前指導では、「保育実習Ⅰ（施設）」を更に深めるための具体的内容を確認し、実践力を高める学習をする。事後指導では、保育所・児童福祉施設の両者を包括的に捉えて、保育士の役割りを考察する。 [達成課題（到達目標）] 児童福祉の視点から、児童とのかかわり方、役割り等を明確にする。					
[授業計画] 【事前指導】 1. 保育実習Ⅲの意義 2. 実習施設の事前訪問（事前オリエンテーション） 3. 児童の理解…個々の状態に応じた援助や関わり 4. 個別支援計画の理解と活用 5. 実習日誌の書き方 6. 指導案の書き方 【事後指導】 7. 実習施設へのお礼状作成 8. 実習の振り返りと自己評価 9. 実習の総括と自己課題の明確化 10. 実習の総括「実習を終え、保育士になるための課題と今後の学び」					
[事前・事後学習の内容] 保育実習Ⅰ（施設）を終えての課題を再認識し、目標を考える。					
[教科書] 改訂版 施設実習パーフェクトガイド（わかば社） [参考文献] 保育実習要綱			[成績評価の方法] 授業態度（50%）、課題提出（50%）		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

保育・教職実践演習		演習	担当者	実務経験
			栃木智美	○
15 回	30 時間（2 単位）	2 年 後期	必修	
[授業の目的・ねらい] 自らの学びと実習を振り返り、保育士、幼稚園教諭として必要な知識と技能を習得し実践力を高める。 [授業の内容] 指導案の作成から模擬保育の実施・振り返りまでを連続的に行い、自己課題を明確にして保育実習Ⅱでの実践に繋げる。 [達成課題（到達目標）] ・子どもの興味・関心に沿った指導案の立案ができる。 ・保育士・幼稚園教諭としての資質を意識しながら模擬保育ができる。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 導入の種類と効果 3. 部分実習の指導案① 4. 部分実習の指導案② 5. 部分実習の発表 6. 指導案の立案 7. 模擬保育の発表① 8. 模擬保育の発表② 9. 模擬保育の発表③ 10. 模擬保育の発表④ 11. 模擬保育の発表⑤ 12. 模擬保育の発表⑥ 13. 模擬保育の発表⑦ 14. 模擬保育の発表 15. 模擬保育の発表⑩				
[事前・事後学習の内容] ・指導案に必要な教材の準備・情報の収集などを確実に行う。				
[教科書・参考文献] 保育所保育指針解説書（フレーベル館） 幼稚園教育要領解説（フレーベル館） 適宜、プリント資料等配布			[成績評価の方法] 演習の取り組み（50％）課題提出（50％）	
[備考] 保育現場での保育士経験がある教員が、その経験を活かして乳児保育の実践技術について指導する。				

授 業 概 要

2025 年度

保育応用力演習		演習		担当者	実務経験
				黒田 慎太郎	○
8 回	15 時間（1 単位）	2 年 後期	必修		
[授業の目的・ねらい] 授業で学んだ保育技術や知識を基に「保育を構想する力」を養い、自己評価と省察を繰り返しながら幼児に向けた創作活動を行う。 [授業の内容] ・ 学生主体で小グループを構成し、幼児への発表を想定した内容の企画・構成・準備・実践を行う。 ・ 保育士の資質として必要とされる協働性・協調性・積極性をもって進めていく。 [達成課題（到達目標）] ・ 自らの発想・構想により活動を展開し、実践していく力を身につけることができる。 ・ 実践を通して、保育士としての自己課題を明確にする。					
[授業計画] 1. 保育応用力演習とは 2. 企画・構成の検討 3. 演習① 4. 演習② 5. 演習③ 6. 演習④ 7. 演習⑤ 8. 実践及び振り返りと自己評価					
[事前・事後学習の内容] ・ 授業で使用する教材や事前の下調べ・準備をする。					
[参考文献] 適宜、プリント資料配布			[成績評価の方法] 演習の取り組み（80％） 発表内容（20％）		
[備考] 保育現場での経験がある教員が、学生自らが主体となって企画・構成、準備等の保育実践に対する総合的な力を養う指導をする。また、現場経験を活かし、子どもの視点での助言・アドバイスを行う。					

授 業 概 要

2025 年度

社会人基礎力Ⅱ		演習		担当者	実務経験
				担任・澤口 右京	
30 回	30 時間（1 単位）	2 年 通年		必修	
[授業の目的・ねらい] 職場や地域社会において活躍する上で重要となる基礎的な能力の習得を目指す。 就職に関する基本的事項を習得する。 [授業の内容] ・外部講師による講義や演習等に参加する。 ・自己の人生設計に関わる知識、社会人として望ましい姿勢や態度などを学ぶ。 [達成課題（到達目標）] ・社会人として必要な知識や態度について、より理解を深める。					
[授業計画] ・オリエンテーション ・就職指導 ・自己についての振り返り ・ライフデザインについて ・租税について ・就職活動について ※ 内容については、状況に応じて追加・調整を行う。					
[事前・事後学習の内容] ・随時、授業や講座で配布された資料に目を通しておく。					
[参考文献] 改訂版 専門学校生のための就職内定基本テキスト(専門学校生就職応援プロジェクト著)			[成績評価の方法] 出席状況、受講態度を総合評価		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

教育実習（１回目）		実習	担当者	実務経験
			栃木 智美	○
2 週間	90 時間（2 単位）	2 年 前期	選択	
[授業の目的・ねらい] ・ 幼稚園の役割や機能について、教師の動きや幼児の姿から理解する。 ・ 園生活を幼児と共にし、幼児とのかかわりを通して幼児理解をする。 ・ 保育の観察、実践、記録及び自己評価について実際に取り組む。 ・ 幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 ・ 幼稚園教諭としての自己の課題を明確化する。 [授業の内容] これまでに習得した各教科の知識・技術を基礎とし、これらを総合的に幼稚園現場において実践する応用力を養う。 [達成課題（到達目標）] ・ 既習の理論・知識・技術を活かして、幼稚園現場で実践することができる。				
[授業計画] 1．幼稚園の役割と機能の具体的展開 ・ 幼稚園の生活と一日の流れの理解 2．観察に基づく保育理解 ・ 幼児の心身の発達の状態や活動の観察とその記録による理解 ・ 幼稚園教諭等の動きや実践、幼児へのかかわり方の観察とその記録による理解 3．幼児の保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 ・ 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 ・ 入園している幼児の保護者支援及び地域の子育て支援等の理解 ・ 地域社会との連携についての理解 4．幼稚園教諭の業務と職業倫理 ・ 幼稚園教諭の業務内容 ・ 職員間の役割分担や連携 ・ 保育の役割と職業倫理 5．自己の課題の明確化				
[事前・事後学習の内容] 実習先の幼稚園の概要を調べておく。				
[教科書] 幼稚園教育要領解説（フレーベル館） [参考文献] 教育実習要綱・配付プリント		[成績評価の方法] 評価表にて検討		
[備考] 保育現場での保育士経験がある教員が、巡回訪問にて保育実践、記録物等について指導・助言をする。				

授 業 概 要

2025 年度

教育実習（2 回目）		実習	担当者	実務経験
			栃木 智美	○
2 週間	90 時間（2 単位）	2 年 前期	選択	
[授業の目的・ねらい] ・ 教師がもつ様々な教育観にふれながら、幼児の観察やかかわりを通して幼児理解を深める。 ・ 保育の計画、観察、実践、記録及び自己評価について実践し、理解を深める。 ・ 幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的な実践し、理解を深める。 ・ 幼稚園教諭としての自己の課題を明確化する。 [授業の内容] 教育実習（1 回目）で得た経験を基に、保育に積極的に参加し実践力を高める。指導案を基に保育実践をし、保育技術向上に努める。 [達成課題（到達目標）] ・ 既習の理論・知識・技術を活かして、幼稚園現場で実践することができる。				
[授業計画] 1. 幼稚園の役割と機能の具体的展開 ・ 幼稚園教育要領の理解と保育の展開 2. 観察に基づく保育の理解 ・ 幼稚園の生活の流れや活動の展開 3. 幼児の保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 ・ 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 ・ 入園している幼児の保護者支援及び地域の子育て支援等の理解 ・ 地域社会との連携についての理解 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 ・ 教育課程に基づく指導計画の作成、実践、省察、評価 ・ 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 幼稚園教諭の業務と職業倫理 ・ 幼稚園教諭の業務内容 ・ 職員間の役割分担や連携 ・ 保育の役割と職業倫理 6. 自己の課題の明確化				
[事前・事後学習の内容] 実習中の指導計画立案（指導案作成）のために、立案のポイントを復習する。				
[教科書] 幼稚園教育要領解説（フレーバル館） [参考文献] 教育実習要綱・配付プリント		[成績評価の方法] 評価表にて検討		
[備考] 保育現場での保育士経験がある教員が、巡回訪問にて保育実践、記録物等について指導・助言をする。				

授 業 概 要

2025 年度

教育実習事前事後指導		演習	担当者	実務経験
			栃木 智美	○
10 回	20 時間（1 単位）	2 年 前期	選択	
[授業の目的・ねらい]				
・教育実習の基礎的、基本的な知識を習得する。				
・幼稚園実習を理解すると共にその土台となる幼児理解や指導方法について実践的に理解する。				
・実習後の自己評価をし、自己課題を明確にする。				
[授業の内容]				
幼稚園の機能と役割、幼児理解と教師の役割等を理解し、幼児の発達を理解した上での教材研究をする。				
また、実習日誌の書き方や、指導案の立て方を具体的に学ぶ。また、事後指導では、実習の振り返りから自己課題を見つけ、今後の学習において改善していく道筋を考える。				
[達成課題（到達目標）]				
4 週間の教育実習を振り返り、幼稚園教諭を目指す自身の課題を明確にする。				
[授業計画]				
【事前指導】		【事後指導】		
1. 実習総論①		11. 実習の総括と自己評価		
2. 実習総論②		12. 実習の課題の明確化①		
3. 幼稚園実習とは①		13. 実習の課題の明確化②		
4. 幼稚園実習とは②		14. 報告会		
5. 実習に際しての留意事項①		15. まとめ		
6. 実習に際しての留意事項②				
7. 幼稚園実習の記録（日誌）①				
8. 幼稚園実習の記録（日誌）②				
9. 幼稚園実習の指導計画と実際 ①				
10. 幼稚園実習の指導計画と実際②				
[事前・事後学習の内容]				
教育実習日誌等の不備の確認をし、指導された様式をすべてファイルに綴じて提出する。				
[教科書]		[成績評価の方法]		
幼稚園教育要領解説（フレーベル館）		授業態度（30%）、課題提出（50%）		
[参考文献]		出席（20%）		
教育実習要綱・配布プリント				
[備考]				
保育現場での保育士経験がある教員が、現場で実習指導をした経験を活かし、実習の心得、記録物等の指導をする。				